

## 慢性心不全看護認定看護師紹介



R-3 看護師 赤澤 規子

今年度より認定看護師分野に「慢性心不全看護認定看護師」が加わりました。心不全は、あらゆる心疾患の終末像といわれています。

心疾患を持つ方は、心不全を発症させないこと、また心不全の方は再発を繰り返さないことが重要となります。心不全の患者さんは、心不全の進行を予防するために服薬の継続、水分、塩分制限など、生涯にわたり自己管理の継続が必要とされます。

しかし、自己管理を継続していくことは容易ではありません。心不全の患者さんが、病気と共に自分らしい生活が送れるよう、患者さんの自己管理能力を高め、個々の生活に適した実践可能な療養行動を共に考えていくことを実践しています。また、多職種との協働ができるよう取り組んでいきたいと考えています。



## プレおばあちゃん教室



日時：平成25年1月16日（水）  
午後1時～3時予定  
場所：母子保健相談室

近いかお孫さんを迎えられる方で、特にお孫さんの育児に初めてかかわる方への教室です。おじいちゃんも大歓迎です。

講義：最近の育児について  
講師：臨床心理士

赤ちゃんのお風呂の入れ方  
お世話の仕方

受講料：3,150円（税込）  
お問合わせ：母子保健相談室



## 糖尿病教室

日時：平成25年2月2日（土）  
午後1時～2時  
2時～3時

糖尿病と歯 特殊歯科・口腔外科 愛甲 勝哉  
糖尿病と肝臓 消化器科 細川 貴範

日時：平成25年3月2日（土）  
午後1時～2時  
2時～3時

糖尿病と眼 眼科 池上 靖子  
質疑応答 内分泌代謝科 藤田 進彦



糖尿病網膜症

受講料：500円 当日払い 予約不要  
お問合わせ：医療社会事業課

武蔵野赤十字病院 電話：0422-32-3111（代表）



武蔵野赤十字病院

No.35

2013年 冬

〒180-8610  
東京都武蔵野市境南町1-26-1  
TEL 0422-32-3111  
季刊 情報誌  
発行 企画課



武蔵野赤十字病院にはご入院中の小・中学生のための院内学級（いとすぎ学級）があります。



いとすぎ学級児童の作品

## 基本理念

- 病人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

## 基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる



# 初春

平成25年 元旦

当院・総診療科から撮影

## 新年のご挨拶



院長 丸山 洋

震災や原発事故の影響が残り、また不安定な政治状況が続くなかではありますが新しい年を迎えることができました。このような時代だからこそ、みなさまが安心して外来に生まれ、治療のための入院ができる病院づくりを目指して、今年も努力して参ります。

今年8月には多摩地区で随一の高度ながん放射線治療のための施設が完成し、本格運用が12月から始まります。これらの施設面の整備と同時に、みなさまの当院に対する満足度をさらに高めるよう、努力してまいります。

また、当院は平成24年度の全国DPC対象1,404病院の中で、大学病院本院（I群80病院）に準じた診療密度と一定の機能を有する病院（II群90病院）に選ばれました。このII群病院は東京ではわずか10病院のみで、高度先端医療の集まる東京においても当院が数少ない高機能・高密度の病院として評価されたことを意味します。この評価に恥じない医療を、地域医療の拠点病院としてみなさまやご家族の方々に提供して参りたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願いたします。



看護部長 若林 節美

震災の傷跡がまだ残る昨年でした。1日も早い復興を願ってやみません。

看護師は皆様のいちばん身近な存在として、また多くの医療従事者と利用される皆様の橋渡し役として、健康に関わることのお手伝いをしたいと思っています。この地域では、「武蔵野・三鷹・小金井看護責任者および地域医療支援会議」という会議を年に4回開催し、医療・看護の質向上に努めています。昨年は、一定領域のケアを専門的に行う、専門・認定看護師を地域で活用しました。本年も、院内の活動にとどまらず地域全体にお役にたちたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



事務部長 中島 良男

当院は、以前から医師、看護師、薬剤師等の多職種が有機的な連携を行い、より質の高いチーム医療の推進を図ってまいりました。平成24年度の診療報酬改定では、チーム医療の推進が拡張され、当院では昨年7月から薬剤師の病棟配置を実施しました。今年度はさらに医療スタッフの増員を図り、チーム医療の充実に努め、安心・安全な医療に努めてまいります。また、昨年から増築工事を進めてまいりました放射線治療機器「リニアク」の稼働は12月を予定しています。その他、血管造影装置等の医療機器の更新を行い、診療機能を更に高めてまいります。今年もどうぞよろしくお願いたします。

## 診療科のご紹介

### 総合診療科



部長 長田 薫

総合診療科は2007年開設の新しい診療科で、開設の目的は3つあり、

- 1) 主に内科系の1次・2次救急診療体制の責任を担う
- 2) 複数の病気を有しており各専門科では対応困難な患者様の診療
- 3) 内科系若手医師に対する一般内科再教育です。



総合診療科の体制は、複数の指導医の元で初期研修医、後期研修医が1-9ヶ月交替で、内科系救急診療の研鑽を積みます。指導医は開設時は血液内科：長田、腎臓内科：羽田、呼吸器科：清水（※）、感染症科：本郷、消化器内科：上田でした。

現在は長田、上田の他、2011年9月から膠原病・リウマチ内科：宇都宮が、2012年2月からは呼吸器科：清水（※）が加わり、外来非常勤の鈴木と合わせて、5名の指導体制です。

病床数は11床ですが、常時20-25名が入院しており、99%緊急入院です。内訳は約6-7割は感染症で、それ以外は不明熱、意識障害、電解質異常、腹痛、下血、胸水、腹水、原発不明癌、DIC、抗がん剤治療適応外の進行癌・血液疾患などです。

また、膠原病系疾患も多数入院し、高度専門治療を行っております。当院専門科通院中の患者様も、複数の臓器に異常が出現する場合には、総合診療科で入院治療を行います。

最近では、当院と同規模の総合病院の内科系専門診療科から、「我々の病院には総合診療科がなく、この患者様に対応出来ないの、診察してほしい」という理由の紹介をしばしば受けます。

限られた病床数で毎日毎晩の緊急入院に対応するため、入院予定病床を救急借りで治療を開始し、院内転床や転院先を探します。診断が付き治療方針が決まった方は、適切な病院へ転院して治療を継続して戴いております。当院が年間7,000-8,000台の救急車を受け入れ可能なのも、昨年度の総合診療科の延べ入院患者数が8,255名におよぶのも、病院-病院連携により、地域の病院が転院を引き受けて下さるからにはかかせません。

また、当科入院治療後に退院される方は、居住地域の医療機関にその後の経過観察をお願いしております。この病院-診療所連携も大変重要な制度です。

当院は地域支援病院でもあり、地域の病-病連携、病-診連携を進めながら、救急診療を担っております。この制度なしでは、毎日多数の救急患者様を受け入れる事ができません。

この地域で医療を受けられる患者様・ご家族様も、どうぞこの事を十分ご理解いただいた上で、今後とも協力宜しくお願い申し上げます。

